

事業群評価調書(令和2年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部林政課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	内田 陽二
事業群名	品目別戦略の再構築(林産物)	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 米や果樹、施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。							(取組項目)) 森林資源の循環利用による県産木材の生産拡大) 対馬しいたけの生産拡大とブランド確立を目指した販路の確保・拡大、五島ツバキ油の生産拡大のための収穫量の安定化、ツバキの葉や材の有効活用			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 県産材生産量は167,991m ³ であり、対前年117%となり、着実に生産量は増加しているが、目標は達成できなかった。主伐による木材生産が進んでいないことが原因として考えられる。 令和2年度生産目標量200,000m ³ の達成に向け、高性能林業機械の導入による生産性の向上や新規林業担い手の確保・育成、主伐・再造林対策などに取り組んでいく必要がある。
	産地計画策定産地の販売実績	目標値		1,040億円	1,053億円	1,067億円	1,076億円	1,093億円	1,093億円(R2)	
		実績値	965億円(H25)	1,077億円	1,098億円	1,048億円			進捗状況	
達成率		/	103%	104%	98%			やや遅れ		
その他 関連指標	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	
	素材生産量	目標値		130,000	174,000	185,000	195,000	200,000	200,000m ³ (R2)	
		実績値	91272(H26)	128,500	136,144	144,086	167,991		進捗状況	
達成率		/	99%	78%	78%	86%		やや遅れ		

2. 令和元年度取組実績(令和2年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 令和元年度事業の実施状況 (令和2年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				令和元年度事業の成果等	中核事業	
				H30実績	うち一般財源	人件費(参考)			主な指標	H30目標	H30実績	達成率			
				R元実績						R元目標	R元実績				
R2計画	R2目標														
1	取組項目	合板・製材生産性強化対策事業費 林政課	H28-	324,982	0	27,105	森林所有者、森林組合、林業事業者	地元説明会等を通じて事業者や森林所有者に事業内容の周知と事業実施の合意形成を図り、間伐材の生産及び路網整備等を一体的に実施した。また、林業事業者の生産性の向上を図るため、高性能林業機械の導入を支援。	活動指標	地元説明会の回数(回)	6	6	100%	事業の成果 ・各地方機関ごとに事業者へ事業内容の説明を行い、普及員が事業者とともに森林所有者に事業実施の同意取得を行ったことにより、搬出間伐の実施面積は計画以上であった。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・本事業への取組を促進することにより、木材生産量の増加に寄与した。	
				833,648	0	27,108					6				
				609,518	0	27,179	根拠法令				成果指標	搬出間伐実施面積(ha)	311		
			1,010	961	95%										
									642						

2	取組項目	対馬しいたけ活性化対策費	R元-3				市、JA、森林組合、しいたけ生産者	対馬しいたけ原木供給協議会に対して、しいたけ原木を安定して供給できる体制を構築するための取組を支援。	活動指標	原木伐採本数(千本)	1200	255	21%	事業の成果 ・しいたけの原木の規格や単価などを取り決め、供給する仕組みはできたが、原木の供給体制においては、伐採コストに課題が残った。 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・原木供給が困難な生産者に対し、原木を供給することができたが、伐採コストが高く、目標量の伐採が困難であった。また、台風による原木流出や、例年に比べ気温が高く、降水量が少なかったことによる発生量の減により、生産量が31.7トンと減小した。結果、生産量が目標に達しなかった。
		林政課		800	800	6,380				根拠法令	成果指標	対馬しいたけ生産量(t(乾燥算))	90	
3	取組項目	五島ツバキ活性化対策費	R元-3				市町、協議会、ツバキ林育成者、ツバキ実収穫者、商品製造業者	五島列島ヤツバキ振興協議会に対して、協議会運営経費および、種子(油)・葉・幹の供給体制を踏まえたモデル地域の設定、各生産者の単収アップに向けた講習会の開催費用を支援。	活動指標	ツバキ取組集落数(集落)	10	9	90%	事業の成果 ・高木化しないための剪定・適正配置の技術を確立するため、集落向けのツバキ剪定講習会を実施(1月28～31日) 事業群の目標(指標達成)への寄与 ・前年度の台風による倒木などの被害の影響もあったが、H30年の12.1klから23.8klまで生産量は回復しているが、目標に達しなかった。
		林政課		641	641	7,954				根拠法令	成果指標	五島ツバキ油生産量(kl)	42	
				902	902	7,975	根拠法令			50				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>森林資源の循環利用による県産木材の生産拡大</p> <p>実績の検証及び解決すべき課題 事業内容の早期周知、普及に努めた結果、計画を上回る搬出間伐が実施され、他事業とあわせた木材生産量は、対前年14%増であった。しかし、主伐による木材生産が想定どおり進まなかったことから、他事業を含めた令和2年度の素材生産量は計画を下回る結果となった。</p>		<p>課題解決に向けた方向性 令和2年度木材生産量200,000m³達成に向け、計画的な間伐、基盤づくりの実施を指導するとともに林業専用道や森林作業道等基盤整備の推進、高性能林業機械の導入による施業の効率化により生産性の向上、新規林業担い手の確保・育成などに取組んでいく。また、路網整備と一体的な計画を策定する新たに主伐・再造林対策として、森林資源、地理条件等の分析に基づいた計画的な主伐・再造林の推進などを検討する。</p>
<p>対馬しいたけの生産拡大とブランド確立を目指した販路の確保・拡大、五島ツバキ油の生産拡大のための収穫量の安定化、ツバキの葉や材の有効活用</p> <p>実績の検証及び解決すべき課題 対馬しいたけ H30年度に立ち上げた対馬しいたけ原木供給協議会のもと、原木の伐採体制の整備を進めている。伐採の手間がかかるため伐採を担う業者がいなくなるという問題が出ている。伐採業者・生産者にとって共に適正な原木の価格や規格等の事項を定め、モデル的な取組を構築し対馬島内に広げていくことで安定的な供給体制を整備していく必要がある。 五島ツバキ 高木化しないための剪定・適正配置技術の確立するために、1月28～31日に9町(集落)において、ツバキ剪定講習会(1月28～31日実施)を実施し、67名の参加があった。一方ツバキ実の生産量については、生産量の増は見られたものの、昨年の台風被害(倒木)により生産量が伸び悩んでいる。目標とする生産量を達成するためには、時間はかかるが、研修会を通じて安定的な実の生産を目指す必要がある。</p>		<p>課題解決に向けた方向性 対馬しいたけ 集落単位にモデル的に原木を供給できるシステムづくりを構築していくことで、原木の供給体制を構築し、しいたけの生産量を増やしていく。 五島ツバキ 農林技術開発センターがツバキの実の生産量を増やすための断幹や剪定技術の研究結果をもとに、災害が発生しても安定的にツバキ実を生産可能なツバキ林を育成するために、引き続き講習会を実施し島内の椿林所有者の育成技術を向上し、安定した椿実の供給に取組んでいく必要がある。</p>

4. 令和2年度見直し内容及び令和3年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和2年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和2年度の新たな取組は「R2新規」等と記載、見直しがない場合は「-」と記載)	令和3年度事業の実施に向けた方向性		
		所管課(室)名		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目	合板・製材生産性強化対策事業費			生産性向上等、体質強化を図るための製材工場等の整備と原木を安定的に供給するための間伐材の生産及び路網整備等、川上から川下まで一体となった取組を引き続き実施していく必要がある。令和2年度も国制度を最大限に活用した施設整備、間伐材の生産及び路網整備等を進めるため、国に事業継続要望を行っていく。	現状維持
		林政課				
2	取組項目	対馬しいたけ活性化対策費			令和3年度においては、対馬しいたけ原木供給協議会を主として、原木を安定して供給できる体制の構築と人材の育成に取り組んでいく。しいたけ原木の伐採経費削減については、他の補助事業と合わせた取り組みを検討していく。また、前年度のしいたけ原木供給実証試験結果をもとに、原木伐採コストの検証や価格を定め、生産者へ提示することで原木の安定的な供給を行っていく。	改善
		林政課				
3	取組項目	五島ツバキ活性化対策費			令和3年度においては、枝葉が繁茂しているため実がなりにくいツバキ林を剪定により多くの実を生産させるために、生産性の高いツバキ林を整備していくために、集落単位に剪定等の技術研修会を実施するとともに、ツバキ実の他、葉や幹を利用する取組が期待されていることから、ツバキ葉の試験研究や収穫方法、供給体制等を構築していく。	現状維持
		林政課				

注：「2. 令和元年度取組実績」に記載している事業のうち、令和元年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- 視点 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- 視点 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- 視点 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- 視点 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- 視点 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- 視点 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- 視点 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要があるか。
- 視点 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- その他の視点